

# 関西学院大学突破カリキュラム

傾向と対策

学習カリキュラム

基礎戦略

ポイント

## ◎ 年間スケジュール

	2月～3月	4月～5月	6月～7月	8月	9月	10月	11月	12月～2月
学校行事								
トライ対策スケジュール	基礎力養成期			基礎力定着、応用力養成期			実践力養成期	
	英語の場合：文法事項の復習・理解。勉強の習慣・リズム・やり方の習得。模試受講による学力傾向の把握。『ターゲット』単語500語、熟語400語目標			英語の場合：文法事項の繰り返し学習による基礎知識の定着。中・長文読解演習による解答力の養成。文章・単語の読み慣れ『ターゲット』単語1000語、熟語700語目標			英語の場合：過去問を使っての大学別対策。時間を計って過去問演習等による実践力の養成、解答ノウハウの習得。『ターゲット』単語1500語、熟語1000語目標	
	三者面談				三者面談 志望校相談		三者面談 志望校相談	
ポイント	●関西学院大学 【学部別偏差値】（神：55.0、文：60.0、社会：57.5、法：57.5、経済：60.0、商：60.0、人間福祉：57.5、国際：65.0、総合政策：55.0、教育：57.5、理工：57.5） ●入試日程・形式 【一般入試】：全学（F日程）、学部個別（A日程）、関学独自方式、関学独自方式（センター利用）、【その他】：推薦入試、AO入試、帰国子女、社会人入試等							

## ◎Data Mining 【傾向と対策】

英語	出題内容は読解総合問題（空所補充、内容一致、和訳など）、整序英作文を含む語法問題、会話文などで構成。難易度は高校で習った内容をしっかり理解できていれば対応は可能。しかし長文問題や解答選択肢の文章量がかなり多い為時間配分や取り組み問題の優先順位付けが重要。学習にあたっては、標準レベルの文法事項を幅広く理解し、記憶することが重要。また十分な単語力、熟語力が必要。過去問を含めたいろいろな種類の長文の読み慣れ、語句自体の意味がわからなくても前後の文脈から内容を推測する訓練をしておくのがよい。
国語	全日程とも現代文1題、古文1題の合計2題の構成。近年難化傾向にある。現代文は評論中心。漢字、語句、熟語説明、空所補充、要旨、内容説明などが出題される。古文で扱われる題材は教科書などで見られる有名な出典が多い。設問構成としては文法知識、現代語訳、内容説明など幅広く出題され、総合的な知識を問う構成と言える。現代文、古文とも問題の分量が多い為、試験までに多くの主題、題材の文章に慣れ、読み慣れていく必要がある。古文に関しては標準文法、単語の知識を先に固めてしまうのがポイント。
数学	文系と理系では内容に違いがあるため事前確認が必要。記述式問題では最終的な解答が間違っても部分点が与えられることもある為、解答の書き方にも気を配る必要がある。すば抜けて難しい問題が出るわけではないので高校で学習した内容をしっかりと理解し演習を積み重ねていくこと、各単元の理解・定着・応用をしっかりとおこなうことが一番重要となる。
その他選択科目	その他選択科目についても年度、学部等によって傾向は分かれますがいずれの科目も問題数の多さが特徴として上げられる。どの科目においても基礎・標準的な知識の理解と定着が最も重要になる。 日本史・世界史などでは単純な語句の暗記だけでなく、当時の時代背景などが問われる場合もあるため、流れを把握しながら学習していくことも肝要。 物理・化学などでは単純な暗記だけでなく、根本的な理解や思考力を問われる問題も目立つ為、より理解⇒定着⇒応用のステップを意識して学習する必要がある。

## ◎ このような生徒にお勧め！

- ・関西学院大学の受験を希望されている方（他大学との併願受験も対応可能）
- ・得意科目、苦手教科にムラがあり塾や予備校では成績が上がっていない方
- ・特定教科・科目のみを強化したい方

## ◎ 対象エリア

兵庫県  
対象学年 高校1年生～高校3年生  
指導期間 お申し込み時から受験迄

## ◎ 対策の特徴

### 【コースの特徴】

- （1）「セレクト教師」指導経験・対応力のある教師で、生徒様一人一人に必要な指導を行います
- （2）「理解度確認テスト」年間6回の「理解度確認テスト」で生徒様の苦手な教科、単元、問題形式を分析します
- （3）「担任制度」学習、進路に関して不安なことがあれば教師だけでなく各生徒様についていつ「担任」がご相談に乗ります

### 【対応教師】

- ・指導経験1年以上、または5名以上
- ・教科数によっては教師数が複数になる場合があります